

病害虫発生予察特殊報 第5号

作物名：すいか

病名：スイカ果実軟腐病

病原菌：*Pectobacterium carotovorum*

(旧病原菌名：*Erwinia carotovora* subsp. *Carotovora*)

1 発生確認経過

平成23年8月、中信地方のすいか栽培園地において、果実が軟化腐敗する病害が発生した。

長野県野菜花き試験場で病原菌の同定を行ったところ、平成24年に*Pectobacterium carotovorum* によるスイカ果実軟腐病であることが判明した。

本病は、平成18年に山口県で発生が報告されているが、長野県では初確認である。

2 病徴及び被害

被害は主に果実に現れる。収穫時には健全であった果実が、市場に到着後または数日のうちに外果皮を残して、多量の腐敗汁を伴い軟化腐敗する。また、外皮が赤褐色に変色することも認められる(図1)。

なお、病原菌を人工的に蔓に穿刺接種すると、原病徴と同様の軟化腐敗を引き起こし、進行すると組織の乾枯裂開が観察される(図2)。



図1 果実の病徴



図2 蔓の病徴

3 病原菌と発生生態

病原菌は、アブラナ科野菜などの軟腐病菌と同一で、すいかだけでなく多くの作物に感染して軟化腐敗させる一般的な植物病原細菌である。6～37℃で生育し、23～30℃が適温であり、高温多湿条件下で本病の発病が助長される。主に、台風や豪雨等で作物が冠水すると大発生し、果実が病原菌を含む菌液に一定時間浸漬することで感染が助長されると考えられる。

4 防除対策

- (1) 断続的な降雨が予想される場合は、生育期間を通してほ場内での感染リスクを低減するため、一般的な細菌性病害対策を講じる。
- (2) 主に果実に生じた傷から感染するため、管理作業や収穫時には、可能な限り果実を丁寧に扱う。
- (3) 被害果実の腐敗汁は、健全な果実への伝染源となるので注意する。
- (4) 現在のところ、本病を対象とする登録農薬はない。

長野県病虫害防除所 所長：平井尚之 担当：武井正明 TEL：026-248-6471（直通） FAX：026-248-6473 E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp
--